

JICA 国際協力(集団研修)

札幌市衛生研究所では JICA(国際協力機構) 集団研修「新生児マス・スクリーニング(クレチン症・フェニールケトン尿症)」コースを実施しています。本年度は11月4日から12月19日の日程で主に衛生研究所において講義及び実習を行い、また各種施設の視察を行っています。

このコースは平成12年度から開始され、4回目になります。毎年、8名から10名の研修生が参加してこの時期に開催されています。

本年度の研修員は

本年度の研修員は男性2名、女性6名の計8名で、職種は医師5名、検査技術者3名です。中南米のアルゼンチン、メキシコ、エルサルバドル、ペルー(2名)、アジアのタイとパキスタン、アフリカのザンビアからきており、約8週間滞在します。

実習はどんなことを



開講式で各国の旗の前で記念撮影



表敬訪問

フェニールケトン尿症(PKU)は、検査法がいろいろあります。ガスリー法は微生物を利用した米国のガスリー先生が考案した検査法で、日本のスクリーニングの開始時から行われています。検査費が安価なこともあって、日本の検査センターでも約半数の施設で使用されています。他の方法としてマイクロプレートによる酵素蛍光法、化学的蛍光法、HPLC法の実習を行います。

クレチン症はELISA法の実習と精度管理、尿中ヨード分析などを行います。



講義では何を習っているの

マス・スクリーニングは検査ばかりでなく、採血から治療管理までのさまざまな人たちのかわりの中でシステム化してはじめて機能するものであり、また周辺疾患の情報も必要です。遺伝に係わる検査のため、倫理面やカウンセリングも大切であり、検査の精度管理も重要です。

そこで、日本各地から著名な講師の方々に講義をしていただいています。日本マス・スクリーニング学会の理事長や、前国際マス・スクリーニング学会長の先生もいらっしゃいます。札幌や北海道内の大学や病院などの先生方や福井、広島、神奈川の大学の先生方による講義を行い、島根、東京、大阪の先生方には旅行先で講義をお願いしています。



講師の先生と記念撮影

見学先はどんなところ

札幌市内では、市立札幌病院、天使病院、中央保健センター、発達医療センターなどを見学し、説明を受けています。また、研修旅行では東京都、大阪市のスクリーニングセンターと島根大学を訪問します。いずれも日本で先進的に活躍している施設です。

今までの研修

平成3年3月に第1回目のJICA 集団研修が開催されました。その時は新生児と乳児を対象としたコースで、今より1か月以上長くて3ヶ月間滞在していました。このコースは10年間行い、平成12年からはリニューアルで新生児のみとなりました。日本はもとより世界で唯一の研修コースであり、世界中からその存在が注目されています。

毎年たくさんの研修員の応募があり、過去13年間の研修員は32ヶ国115名にのぼり、それぞれの国に戻って活躍しています。

最後にひとこと

毎年研修の受け入れは大変ですが、世界中にこのマススクリーニングが普及し、一人でも多くの赤ちゃんが健康に育ってくれることを願って研修を行っています。講義、実習が主に英語で行われますので、毎日外国にいる雰囲気です。ぜひ一度見学にいらしてください。

マス・スクリーニングのホームページは <http://www.city.sapporo.jp/eiken/screen/>
(編集発行 保健科学課 水嶋好清)